

## ■生理検査科

生理検査科は、血液や尿といった検体検査以外の検査、いわゆる「生理検査」と呼ばれる、患者さまの体を直接調べる事によりその身体機能情報を収集・分析する検査業務を行っています。

スタッフは臨床検査技師4名、10数種類の検査業務を、通常は心電図室、肺機能・エコー室の2部屋にて（心カテを除く）行っています。また、PSG検査は就寝直前にセンサーを装着するため、20時より患者さまの病室で行っています。

○平成16年度目標 \*評価は今年度全体を通してのものです。

### 1. 患者サービス

- ・患者さまへの気配り
- ・正しい言葉遣い、清潔な身だしなみ
- ・清潔な検査室

〈評価〉

検査中はもとより、検査前後の患者さまの様子に気を配るよう心掛けています。毎月の自己チェック表にもこの項目に関する事項を含めてあり、前年度にみられた検査中の室温に対するクレームも無くなりました。

ほか、接遇面でも特に問題は起きていません。

### 2. 医療事故の防止

- ・事務的ミスの防止
- ・患者さまの取り違えの防止
- ・怪我の防止

〈評価〉

今年度のインシデント報告は計5件（レベル1のみ）。1件は他部署との連携不足による事例だったため直ちにシステムを変更、その後は問題なく経過しています。他の事務的ミスや移動時の事例については思い込み・確認不足によるものだったため、確認・声がけを強化し、それらを促すラベルを検査機器に貼るなどの工夫を行う事で再発防止に努めています。

フルネーム確認は徹底されていると思われ、患者さまの取り違えは起きていません。また、転倒・転落事故もありませんでした。（前述の移動時の事例は検査機器にぶつかった事による軽い打撲）

### 3. 感染の防止

- ・手洗いの励行、検査機器の清掃、消毒
- ・感染に関する正しい知識と情報

〈評価〉

自己チェック表に各項目が含まれており、毎月の記入時に意識付けを行っています。

また、関連する研修会への参加を心掛けています。

### 4. 検査技術・知識の向上

- ・超音波検査を中心に全員が全検査技術を修得
- ・睡眠ポリグラフ検査の手技の向上、解析方法の習得
- ・勉強会、講習会への参加

〈評価〉

現在、院内での研修のほか、ほぼ週1回のペースで南三条のスタッフと合同での腹部超音波検査講習会を開催、初心者への技術研修を行っています。

実際の検査業務に携わるようになるにはもう少し時間がかかると思いますが、的確な技能・知識の習得を出来るよう、今しばらくこれらの研修を続けていきたいと思っております。腹部の研修終了後には心エコーの研修に取り組む予定です。

エコー以外の検査については、ほぼ全員が行えるようになりました。

また、PSG検査についても、この1年で経験を積み、1時間内に装着・記録開始を行えるようになっていま

す。解析業務については、今年度はまずはエコーの研修に力を入れていたため、解析方法の習得までには至りませんでした。引き続き来年度の課題として、エコー研修が一段落しましたら段階的に取り組んでいきたいと思っております。

#### 5. 検査予約方法の見直し

- ・検査予約システムの導入

〈評価〉

前期に予約システムを導入（6月に正式稼動）、後期に入り検査機器故障などによる予約制限を行う事が何度かありましたが、必要に応じて電話予約に切替えるなどの対応し、今のところ大きなトラブルもなく稼動しています。

#### 6. 経費節減

- ・消耗品の節約
- ・マニュアルに従い、各廃棄物の処理

〈評価〉

各廃棄物の処理も適切に行われており、消耗品の在庫管理も問題なく行われていると思っております。

#### ○後期に参加した講習会・研修会

平成16年10月	学術講演会	「日常における血管形態・機能・効果度の評価」
11月	第38回札幌心電図懇話会	「虚血の超音波：壁運動評価から壁内機能評価へ」
	第131回臨床検査講座	「不整脈判読ステップアップレクチャー」 －不整脈と最新の治療法－3回シリーズそのⅢ」
	第3回臨床検査セミナー	「消化管の超音波検査～基本走査と代表疾患～」
平成17年1月	超音波ハンズオンセミナー	①「消化管エコーの基礎 ～エコーでAPPEを診よう！～」 ②「冠動脈エコーの基礎 ～Coronaryの描出から評価法まで～」
2月	第6回臨床検査セミナー	「事例より学ぶ心エコー －スキルアップを目指して－」
	第9回合同講演会	①「生理機能検査技師に役立つ 心サルコイドーシスの考え方」 ②「睡眠時無呼吸症候群」

#### ○後期の検査実施件数（別表を参照下さい。）

外科と呼吸器科の一部、健診部門が南三条へ移転した事により、当科の検査件数にも影響がありました。

健診・ドックが無くなった事によって、その分の心電図、腹部エコー、眼底検査、肺機能検査数が大幅に減少、同様に手術前の検査も無くなったため、関連する検査にも少々減少が見られました。それと相対的に循環器・腎臓内科、呼吸器科からの心エコーのオーダーの増加傾向が認められます。

また、機器の移動によりドプラ機能の付いたエコー機が導入された事で、頸動脈、下肢の動静脈、透析患者さまのシャントといった血管エコー検査を新たに行うようになりました。この血管エコーの需要は更に増えると思われませんが、正直なところ今はまだ手探りで検査を行っている状態なので、もっと経験を積み、講習会等にも参加して技術・知識を身に付けるよう、また検査手法の安定化・標準化を進めて、様々な依頼に応えられるようにしたいと思います。

今年度を通しての動向としては、各検査ともほぼ安定した件数を保っており、来年度もこれを維持しつつ、先に述べた血管エコーなど、新しい検査への取り組みを行っている事をアピールしていけたらと思っています。

#### ○これからの展望

来年度の目標としては、まずはエコー検査の技術習得を引き続き行う事、それと共にPSG検査への取り組みを深めていく事を進めたいと考えています。また、前期でも述べましたが、地元での研修会だけでなく、地方での研修会・学会への参加も出来たらと思っています。

新体制になってから1年が過ぎ、新しいスタッフも仕事に慣れた事で業務が円滑に進むようになりました。ただ、この「慣れ」が「油断」に繋がる事も多く、それがインシデント、果ては医療事故へと至る可能性も高いと思いますので、気持ちを引き締め、ひとつひとつの業務を正確に行うよう心掛けたいと思います。

また、4月より個人情報保護法が施行される事で、院内の情報管理もより厳格なものとなると思います。当科にも検査伝票等、患者さまの情報が記載されたものが相当数ありますので、それらの管理を適切に行うべく、伝票の管理方法、保管場所の見直しなどを進めていく予定です。

○別表：後期の検査実施件数及び今年度の総計

	10		11		12		1		2		3		合計		今年度総計	
	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入
心電図	236	93	188	97	120	82	212	73	169	108	216	83	1141	536	2139	1061
負荷心電図 マスター	6	7	10	4	4	4	4	5	3	4	7	2	34	26	58	37
トレッドミル	3	2	4	3	3	0	3	2	1	4	2	2	16	13	46	32
ホルター心電図	10	11	11	12	10	8	10	7	11	4	15	4	67	46	130	104
心エコー	31	41	26	37	21	46	28	47	32	49	47	48	185	268	399	510
腹部エコー	28	29	30	30	30	45	23	33	25	44	28	42	164	223	334	438
眼底カメラ	20	3	17	1	9	4	8	5	12	2	15	1	81	16	127	32
肺機能 ルーチン	19	10	21	12	15	9	22	15	17	7	19	10	113	63	267	133
残気量	15	7	15	12	11	8	18	14	15	7	18	9	92	57	206	112
拡散能	14	8	16	12	10	8	16	13	14	7	17	9	87	57	198	114
改善率	1	1	2	1	2	1	1	0	2	0	3	1	11	4	26	8
肺機能TOTAL	19	11	22	12	15	9	22	15	17	7	19	10	114	64	268	137
穿刺		1		1		0		2		0		0		4		8
心臓カテーテル		7		3		3		4		7		8		32		57
骨密度測定	1	2	3	2	1	1	0	0	0	4	2	0	7	9	26	21
合計	383	220	340	225	235	218	345	220	301	243	387	219	1991	1345	3930	2646
院外ホルター解析	33		28		21		30		25		33		170		334	
PSG検査	7(8)		6(7)		6		7(8)		7		13		46(49)		94(102)	

\* P S G検査の（ ）は業者担当分を含む数